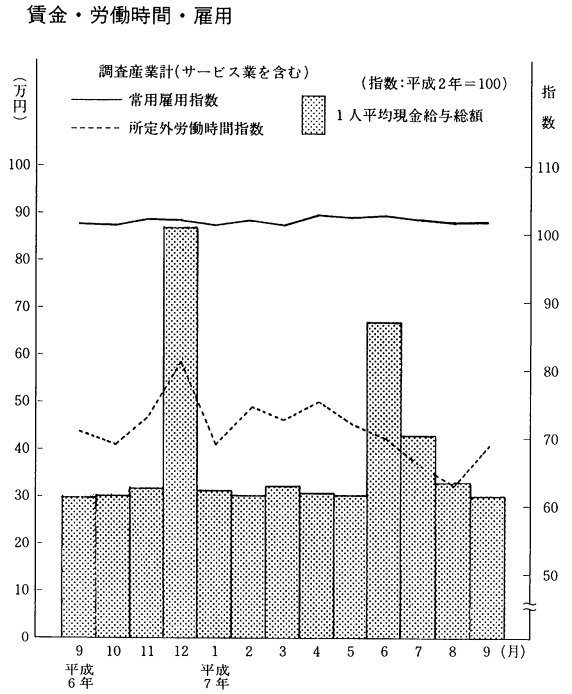
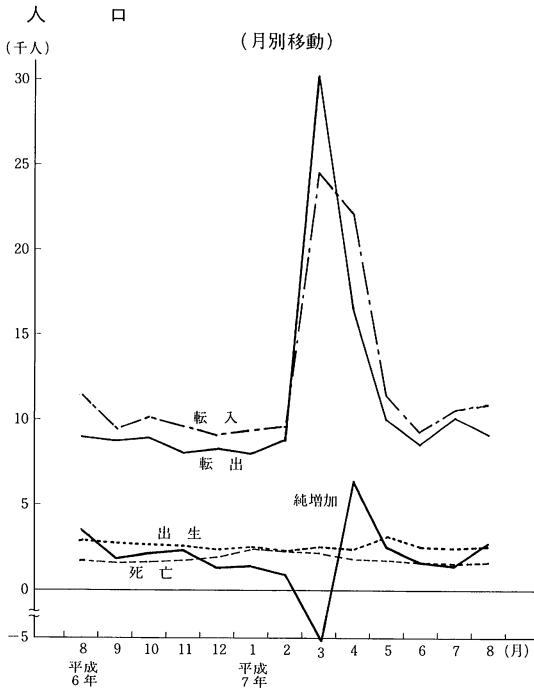
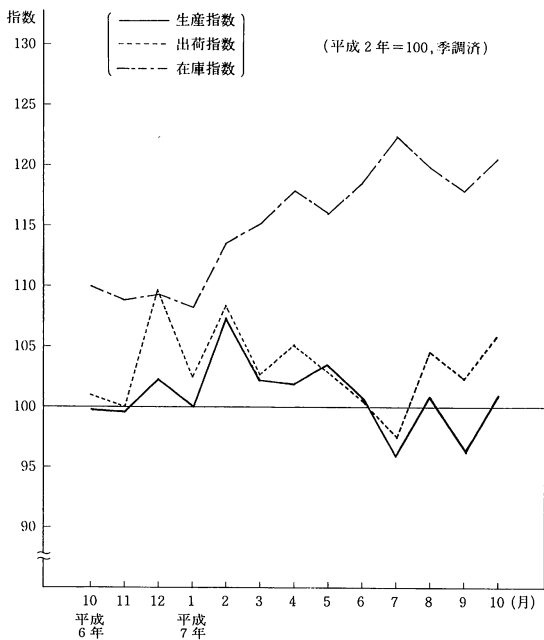


● 今月の主な動き

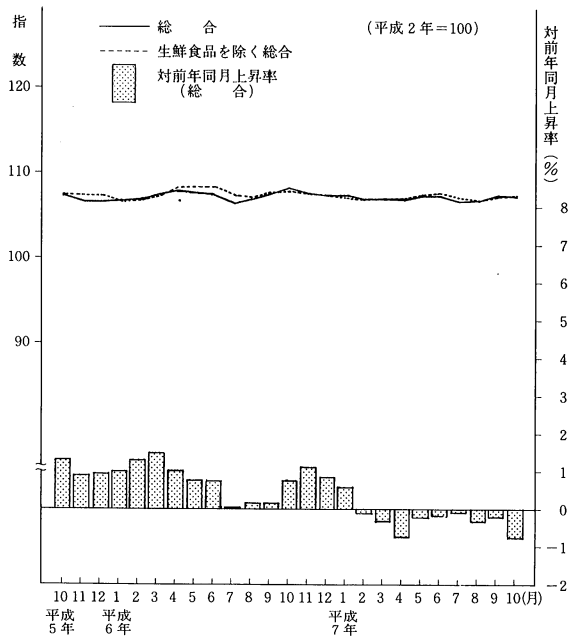
# 今月の主な動き



鉱工業指数 (生産・出荷・在庫)



消費者物価指数



主な動きのあらまし……………企画部統計課

■人口(11月1日)

本県の人口は、10月中に2,296人増加し、11月1日現在で、2,957,808人(男1,477,734人、女1,480,074人)となった。

内訳は、自然動態で627人(出生2,285人、死亡1,658人)増加し、社会動態で1,669人(転入11,337人、転出9,668人)増加した。前年同月と比べると6,670人(0.2%)の増加で

ある。

市町村別では、増加が15市34町村、減少が5市27町村、増減なしが4町村である。

世帯数についても10月中に、1,763世帯増加し923,949世帯となった。

■賃金・労働時間・雇用(9月)

1. 平均賃金の推移

9月の現金給与総額は、調査産業計で304,938円、対前年同月比1.7%増、このうち、きまって支給する給与は302,437円、対前年同月比1.5%増であった。また、このうち、所定内給与は275,371円、対前年同月比1.1%増であり、超過労働給与は27,066円、対前年同月比5.7%増であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、対前年同月比2.5%増であった。

※この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。

2. 労働時間

9月の総実労働時間は、調査産業計で162.8時間、対前年同月比0.4%減であった。このうち、所定内労働時間は149.5時間、対前年同月比もちあい、所定外労働時間は、13.3時間、対前年同月比4.2%減であった。

3. 雇用の動き

9月の雇用の動きを常用雇用指数によってみると、対前年同月比0.4%減であった。

■鉱工業指数<生産・出荷・在庫>(10月)

本県における平成7年10月の“鉱工業指数”(平成2年=100)は、季節調整済指数で、生産が101.0、出荷が105.8、在庫が120.6で、前月比は、生産が5.0%の上昇、出荷が3.7%の上昇、在庫が2.2%の上昇であった。

前年同月比(原指数)は、生産が1.3%の上昇、出荷が5.1%の上昇、在庫が9.8%の上昇であった。

業種別に前月比をみると、生産では、一般機械工業、金属製品工業、精密機械工業等が上昇し、鉱業、石油・石炭製品工業、その他工業等が低下した。出荷では、精密機械

工業、一般機械工業、非鉄金属工業等が上昇し、鉱業、石油・石炭製品工業、鉄鋼業等が低下した。在庫では、輸送機械工業、鉱業、化学工業等が上昇し、精密機械工業、石油・石炭製品工業、非鉄金属工業等が低下した。

財別にみると、生産では、資本財、非耐久消費財が上昇し、その他用生産財、耐久消費財等が低下した。出荷では、資本財、非耐久消費財が上昇し、耐久消費財、鉱工業用生産財等が低下した。在庫では、資本財、鉱工業用生産財等が上昇し、その他用生産財、耐久消費財等が低下した。

■消費者物価指数(10月)

平成7年10月の茨城県消費者物価指数(県平均)は、総合で107.3(平成2年=100)となり、前月比0.1%の上昇、前年同月比0.8%の下落となった。

今月の上がった主な項目……果物12.6%、シャツ・下着2.3%、衣料1.9%、魚介類1.8%

今月の下がった主な項目……野菜・海草5.5%、飲料1.7%、履物類1.6%、他の教養娯楽1.4%

生鮮食品を除く総合は107.5となり、前月比もちあい、前年同月比0.3%の下落であった。

費目別指数

(平成2年=100)

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総合	107.3	0.1	△0.8	保健医療	103.0	0.0	△0.1
食料	105.6	0.3	△2.7	交通通信	99.4	0.2	0.2
住居	116.5	0.0	0.9	教 育	116.8	0.0	2.5
光熱・水道	102.6	0.2	△0.2	教養娯楽	107.3	△1.3	△2.0
家具・家事用品	96.2	△0.8	△3.1	諸 雑 費	104.7	0.1	0.3
被服及び履物	115.6	1.6	0.3	生鮮食品を除く総合	107.5	0.0	△0.3